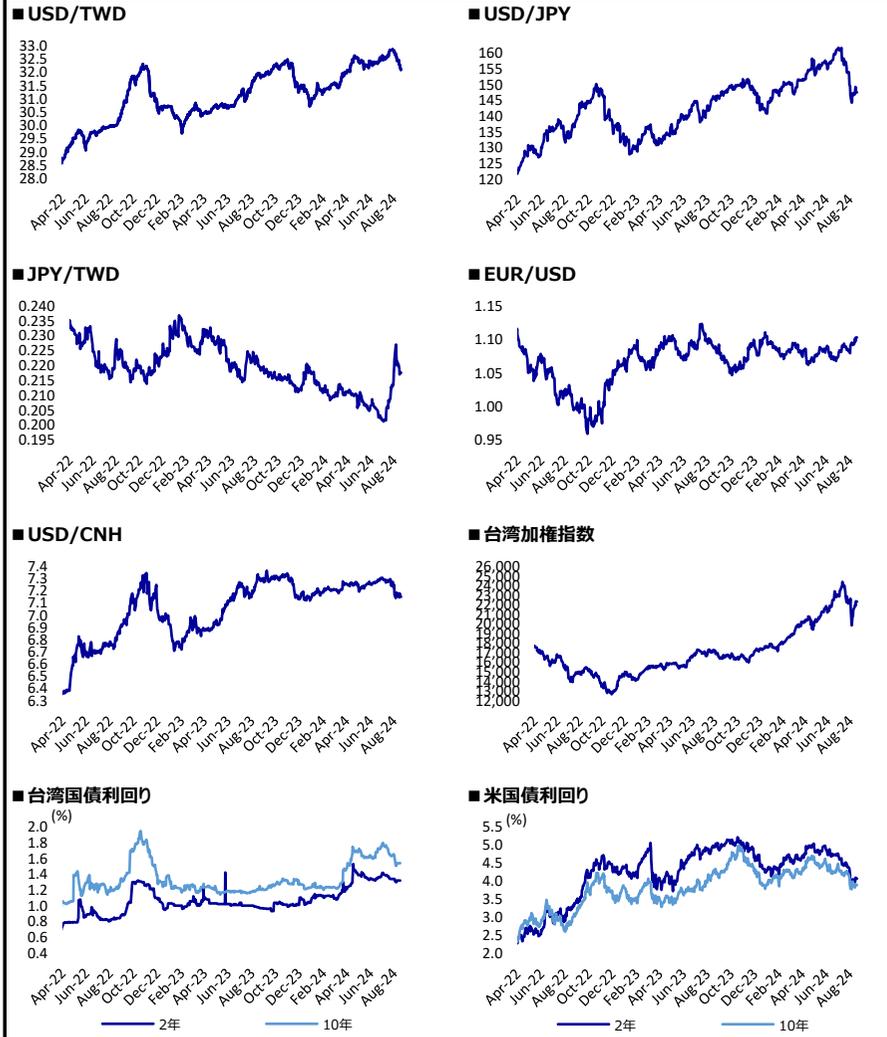


市場動向



先週の市場動向

**■USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは下落。週初8/12は32.420でオープン後、週初材料に乏しい中、売り買い交錯の展開となり32.40台半ばで揉み合いの推移。8/13は、海外債券投資資金送金が目立ち始める中、ドル買いが優勢な展開となり一時32.488まで上昇した。8/14は、前日海外時間に発表された米7月PPIが市場予想を下回る軟調な結果となっていたことを受けて、米国における年内利下げへの期待感が高まる中、ドル売りが優勢な展開となり一時32.262まで下落。8/15は、米利下げ期待がドル売り要因となった一方、台湾からの海外債券投資資金送金フローがドル買い要因となり、結局売り買い交錯の展開に。32.30近辺で揉み合いの推移。8/16は、前日海外時間に発表された米経済指標が堅調な結果となっていたことを受けて、32.40近辺まで上昇。しかしその後、外国人投資家による台湾株買いがまとまって見られた他、輸出業者による外貨売りが見られたことで台湾ドルが買い戻され、32.30近辺まで下落。最終的には前週比0.5%ドル安台湾ドル高の32.288で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は837.5億台湾ドル。

**■USD/JPY**  
先週のドル/円は上昇。週初8/12は146.49でオープン後、前週末の報道において元日銀審議員の桜井氏より「年内の再利上げは難しいだろう」との見立てが示されたことで円売りが進み、148円近辺まで上昇。8/13は、海外時間には発表された米7月PPIが市場予想を下回る軟調な結果となったことを受けて、ドル売りが進み146円台半ばまで下落した。8/14は、米インフレ指標の落ち着いた背景にドル売りが続き、一時146.07まで下落。8/15は、海外時間に発表された米7月小売売上高が市場予想を上回る堅調な結果となったことを受けて、ドル買いが優勢な展開となり一時149.40まで上昇した。8/16は、米民主党の大統領候補であるハリス氏より、物価高対策を柱として経済政策が公表されると、インフレ低下への期待感からドル売りが優勢な展開となり147円台半ばまで下落。最終的には前週比0.7%ドル高円安の147.60で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■USD/TWD** 予想レンジ：31.850-32.150  
今週は下落を見込む。米国における利下げ期待が高まる中、ドル売り圧力は残存しやすい他、リスクセンチメントの改善を背景に台湾株の上昇が続き、資金流入が進む場合、台湾ドル買い圧力が高まりやすいであろう。

**■USD/JPY** 予想レンジ：146.00-149.00  
今週は揉み合いの推移を見込む。重要な中銀イベントや経済指標の発表を終え、目先は方向感に欠ける展開となるであろう。

今週の予定

8/19 (MON)	
8/20 (TUE)	台湾7月輸出受注
8/21 (WED)	日7月貿易収支
8/22 (THU)	台湾7月失業率、米8月PMI景況感指数
8/23 (FRI)	日7月CPI、台湾7月鉱工業生産、米7月新規住宅販売件数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。